

地域情報（県別）

【東京】全国的に珍しい精神科オンライン診療「すぐに地方・海外の患者増」-渡邊功・iこころクリニック日本橋院長に聞く◆Vol.1

2021年7月9日（金）配信 m3.com地域版

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行によってオンライン診療を行う医療機関は増えたが、実施する診療科は内科と小児科が過半数を占める。そんな中、精神科と心療内科を標ぼうする「iこころクリニック日本橋」の渡邊功院長は、国が初診からのオンライン診療を解禁して早々に同診療を始めた。どんな経緯で始め、どう手応えを感じているのか。（2021年5月23日インタビュー、計3回連載の1回目）

▼第2回は[こちら](#)

▼第3回は[こちら](#)（近日公開）

——まずは、iこころクリニック日本橋の概要をお聞かせください。

当院は精神科と心療内科を標ぼうするクリニックで、2019年12月に開院しました。老若男女を問わず、さまざまな方のどんな相談に対してもある程度の解決を目指せることをコンセプトに据えています。スタッフは私を含めて9人おり、医師は私以外に非常勤の精神科医が4人、他の職種は医療事務と精神保健福祉士、臨床心理士、非常勤の公認心理士がそれぞれ1人ずつ在籍しています。

治療の手立てとしては一般的な薬物療法のほか、心理士によるカウンセリングを行い、2021年8月からはうつ病などに対する「TMS治療」を始める予定です。これは頭部に磁気を照射して脳機能の回復を目指すもので、副作用がほとんどない点が大きな特徴です。薬物療法では患者さんの半数以上に何らかの副作用が出てしまうため、薬を使いたくない人には有効な選択肢の一つになります。厚生労働省の認可を受けていますが、まだ全国的に行っている医療機関は少なく、精神科では先端的な治療と言えるものです。



渡邊功院長

——開院して間もなく、COVID-19の流行に直面したんですね。

「不運」としか言えませんが、当院の場合、影響が一時的に済んだのは不幸中の幸いでした。2020年3月にWHOがパンデミック宣言を出してから初診の患者さんが減り始め、4月に国内で緊急事態宣言が発令されてからは新患がゼロの日もあり、同月の医業収益は3月のおよそ6割に落ち込みました。しかし、宣言解除が影響したのでしょうか。6月には来院数が戻り、以後、堅調に増えていきました。

現在の1日の患者数は50～60人ほどです。年齢は15歳から70代で、平均年齢は38歳。日本橋という土地柄、周辺で働いている20代の会社員の患者さんが多いことが平均年齢を押し下げています。患者さんの特性上、主訴はやはりパワーハラスメントや業務過多など仕事上のストレスが多いですね。

——先生は若くして開業されています。どんな経緯だったのでしょうか。

33歳の時に開業しましたが、ぼんやりながらも私が独立を考えだしたのは早く、初期研修医のころでした。私が勤めていたのは精神科の診療を強みとする国立国際医療研究センター国府台病院（千葉県市川市）で、当時の先輩にさまざまな話を聞くうちに、「精神科を目指すのであれば将来的に開業も選択肢に入りやすいな」と思うようになりました。精神科は他の診療科に比べて必要な機器が少ない分、イニシャルコストを低く抑えられることなどを知ったのです。

その後、勤務医として複数の病院やクリニックで診療経験を重ねるうちに考えが具体化していきました。精神科の診療は答えが一つではなく、医師が患者さんに応じて多職種と連携し、治療プランをアレンジしやすいことが大きな特徴です。それがやりがいにも難しさにもつながるわけですが、「診療の自由度をさらに高めるためには開業する方が良いのではないか」「開業することで自分が関わる人の幅も広がるだろう」と考えました。

病院の中にいるとどうしてもその組織の中だけに人間関係が終始しがちですが、開業すれば医療の枠を超えたお付き合いが増えるでしょう。その経験がやがて診療の幅を広げ、より効果的な治療の提供につながっていくのではないかと思います。精神科医で言えば、産業医を務めることで企業の人事の方などとも交流できます。私はさまざまな人と接することに興味があるので、それが開業を後押しした要因にもなりました。

——iこころクリニック日本橋ではオンライン診療を行っています。厚生労働省の資料によると、2020年10月～12月にオンライン診療を受けた患者4162人の主科は内科が64.3%、小児科が28.6%で、この2科で92.9%を占める一方、精神科は0.5%でした。精神科でのオンライン診療は全国的に珍しい取り組みですが、どんな考えでいつ始めたのですか。

開業前からオンライン診療には注目していました。外出の難しい引きこもりの方への活用やTMS治療の説明などに役立てられるだろうと考え、開業してすぐに設備を整えたのですが、やはり開業当初はクリニックの運営に手一杯でした。実際に使い始めたのは、2020年4月に国がCOVID-19対策として初診からのオンライン診療を解禁した後の同月中旬です。

オンライン診療の手応えはすぐに得られました。精神科で同診療を行っている医療機関はまだ全国的に少なく、目新しさもあったのでしょう。ホームページ（<https://www.ikokoro.net/care/online/>）に情報を掲載してから早々に、首都圏だけでなく地方や海外からも問い合わせが入るようになり、翌月からはオンライン診療を受ける初診の患者さんが毎日1人は入るようになりました。現在は1日に新患が3人、再診が4人のトータル7人ほどをオンラインで診ています。

◆渡邊 功（わたなべ・いさお）氏

2012年福島県立医科大学卒。国立国際医療研究センター国府台病院や北里大学東病院、神奈川県精神科クリニックなどへの勤務を経て、2019年、「iこころクリニック日本橋」を開院。国がCOVID-19の対策として初診からのオンライン診療を解禁した2020年4月、オンライン診療を始めた。

【取材・文・撮影＝医療ライター庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

